

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、見やすい所に掲げている。職員同士が理念を共有したり、振り返りを行い、意識して実践している。	法人の理念を基にした「笑顔、安心」というキーワードが入ったホーム独自の理念があり、食堂に大きく掲げられている。職員は理念を漠然と捉えるのではなく、「利用者にとっての安心」や「利用者が笑顔でいられるためにはどのような支援が必要か」など、申し送りや職員会議の時だけでなく日々のケアの中でも管理者からスタッフに深く掘り下げて考えるように問い掛けている。また認知症ケアや9名の利用者を個人個人としてとらえることの重要性も日頃より問いかけ、より良い支援に繋がるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の際は、地域の方に挨拶ををし交流を図っている。地域の行事の際は、積極的に参加させて頂き、交流を図っている。(どんど焼き、どんとこい祭り、小学校運動会)	法人として自治会へ加入し、5月から11月の週1回、法人としての地域の清掃活動に職員が参加したり、どんど焼きなどの地域の行事に利用者も積極的に参加している。またホームには読み聞かせや俳句、外出行事同行、ハンドマッサージなどのボランティアが来訪したり、中学生のサマーチャレンジや法人内外の実習生も受け入れており、利用者の楽しみの1つとなっているだけでなく、気分転換の機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合や研修等の関わりは持っていないが、今後そのような依頼が来た場合は、行えるよう対応している。また、人材育成の貢献として、近隣の高校や専門学校の実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や活動報告、身体拘束・認知症の研修等の報告会も毎回行っている。また、グループホームの行事に参加して頂くことにより取り組みや活動内容を見て頂いている。(七夕祭り)	2ヶ月に1回、利用者、家族、地域の代表2名、地域包括支援センター職員、市健康福祉部高齢者介護課職員、ホーム職員が参加し、利用者状況や活動の報告、質疑応答などを行っている。質疑応答ではホームの話だけでなく、地域の実情や高齢者ドライバーの問題などについて触れ、活発な意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員にも運営推進会議に参加して頂き、その中で連携を図り、サービス向上に取り組んでいる。また、サービスケアについて相談等行っている。	運営推進会議以外でも市の担当課には随時相談を行い、介護認定更新の際には調査員が来訪し、家族や職員が立ち会い、詳細な情報を伝えている。また、3ヶ月に1回、2名の介護相談員が来訪し、利用者のリフレッシュの機会となっているだけでなく、職員が利用者の情報を知る機会ともなっている。当ホームは上田市のグループホーム部会にも所属しており、他法人のグループホームとも市からの情報の交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に御利用者の居場所を確認している為、居室の鍵をかけることはない。1階へ降りるエレベーターは、利用者の安全のために常に施錠されているが、御家族に説明し了承を得ている。	職員は法人の基礎研修で「身体拘束」や「権利擁護」に関する研修を受け、職員会議においてもスピーチロックも含めた身体拘束に関して学び、振り返りを行っている。また管理者は身体拘束が「人としてどうなのか」や「なぜその方がそのような行動をとるのか」等を常に考えて行動するように職員へ伝えている。現在、若干名の利用者が、転倒歴があり、今後も転倒のリスクがあるため、センサーマットを使用している。	

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法・マニュアルの読み合わせを行っている。また、虐待の徹底防止に努めている。さらに地区合同研修の高齢者虐待防止に参加し意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では研修会は開催していないが、今後開催する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等詳しく行い、納得を得た上で、契約の手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は介護相談員、第三者委員が来園し、1対1で話を聞いてもらっている。ご家族は、面会時または電話にて利用者の状況を伝えている。また、グループホーム近況報告を発行して暮らしぶりを伝えている。出された意見、要望は会議で話し合い反映させている。	自分の意見や要望をはっきりと表出できる利用者は少ないが、本人の生活歴や行動、様子などから読み取るようにしている。家族の面会は週1回来訪する方や月1回来訪する方など様々であるが、年2回開催される家族会やバーベキュー大会、バラ園への外出など、行事へ参加される家族も多くあり、その都度、意見や要望を聴いている。また年3回、法人の上田原エリアとしてのお便りや毎月の「グループホーム便り」、「個々の近況報告」等を郵送し、利用者の日頃の様子を伝えている。動画を撮影して、家族へ様子を伝えることも検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームスタッフ会議以外でも、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、常に各職員の意見を聞き、運営に反映させている。	毎月1回職員会議を開催し、伝達事項や事故・ヒヤリハット報告、利用者の状況報告、ケアプランについて、学習会などを行い、職員から意見を聴く機会を設けている。それ以外にも日常的に管理者が職員とコミュニケーションを図り、利用者への対応だけでなく、適宜、業務についての改善も行われている。また、法人としてストレスチェックを実施し、職員のメンタル面にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で人事評価制度を導入し、個人での自己評価を毎月行うほか管理者との面談等を通し、実績を評価と給与に反映させる仕組み作りを行い、向上心を持って働ける職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門職としての知識を得るために、OJT、Off-JTを実施し、さらにSDSも検討している。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問や、事例検討等の意見交換を行い親睦を図っている。また、活動を通じて意見をケアに取り入れサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人と面会を行い、本人の情報を確認すると共に実際の様子をかんさつしている。さらに不安なこと、要望等に耳を傾けることによって信頼を得ることに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の不安な事や家族の困っていることを踏まえて安心して利用できる環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いをしっかりと受け止め「できること」「できないこと」も素直に話し合い可能な限り希望に沿えるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ること努め、共に支え合える関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や変化等は、月1度文書にて家族に報告すると共に支援の方法、対応について意見を交換している。また、家族会を開催し、家族同士の交流の機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族と会ったり、家族との外出や外泊、馴染みの場所に出掛ける機会を作っている。利用者の友人や親戚が訪ねて来られることもあり、お付き合いが続くよう、雰囲気作りにも配慮している。	利用者によってはホーム利用前の近所の知人や友人の面会が随時あり、職員が環境に配慮しつつ、思い思いにそれぞれの会話を楽しまれることがある。また、利用者の中にはお盆や年末年始に家族と自宅に外出される方や3ヶ月に1回自宅へ外泊される方もおり、ホームとしてそれらの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流を持てるように配慮している。また、共同作業を行えるよう環境を整えている。家事やレクリエーションを通じ利用者同士が関わりを持てるように工夫している。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された家族にも改善点など意見を伺い、幅広い情報収集に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通して把握に努めている。本人本位の検討を心掛けている。	思いや意向を表出できる方は少ないが、一人ひとりの生活歴や家族からの情報、日常のつづやきなどをつなぎ合わせたり、センター方式を活用するなど、利用者の思いを把握することに努めている。また生活の中で出たつづやきや仕草は申し送りや連絡帳で職員間で共有しており、利用者の中には趣味の絵手紙や書道、生け花を継続している方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用の基、本人や家族に尋ねながら以前の生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の職員同士の申し送り・記録によって、情報を共有し現状の把握に努めている。月に1度のスタッフ会議で利用者それぞれの暮らし方の支援や、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー等を中心に本人・家族・関係者の希望、意見を反映した介護計画の作成に努めている。	利用者の担当制をとっており、担当職員を中心に情報収集やアセスメントを行い、利用者や家族の希望を聞きながら、計画作成担当者がプランを作成している。また長期目標を1年、短期目標を6ヶ月に設定し、毎月モニタリングを実施している。利用者の状態に変化が見られた場合には随時、計画の見直しをしている。今年度から今までのケアプランの考え方を見直し、「利用者ができる事」に視点を置き、その時点の利用者のニーズを盛り込んだプランの作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の個別記録に詳しく記入し、職員がどのように対応したのか情報の共有を明確にするよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接事業所のクラブ活動・行事・ボランティアの協力の下、趣味活動の充実に努めている。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアを依頼し、レクリエーション・行事に参加して下さるボランティアを受け入れている。防災訓練(年2回)には消防署にも協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿ったかかりつけ医と連携している。月に1回訪問診療に来て頂き、各医療機関からの情報は個人記録に記載し、情報の共有を心掛けている。	契約時にかかりつけ医についての希望を聴いているが、ほとんどの利用者が提携医を利用し、若干の方が利用前のかかりつけ医を継続している。基本的に提携医以外の受診は家族対応となっているが、緊急時や家族の都合のつかない時には職員が対応している。その際、受診前後の情報のやり取りは家族と密に行っている。また月3回訪問看護師の来訪があり、健康観察や相談などを受け、24時間オンコール体制のため利用者や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、週に1回の健康観察を行っている。体調不良や、受診等の小さなことでもいつでも相談できる環境を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医療機関と連携して情報の共有・交換を行い、早期退院に努めている。。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族・かかりつけ医・看護師と連携を取り、情報を共有している。また、状況に応じて早い段階から病状説明をお願いし、家族が納得出来る最期が迎えられるよう支援している。	「重度化対応及び終末期ケア対応指針」があり、契約時や重度化した場合に家族へ説明している。今年度1名の方の看取りを行った。看取りに際して医師を始めとした関係者と情報交換をし、職員同士で引継ぎやカンファレンスを行い、最期は親族が見守る中で見送ることができたという。また、看取り後には職員会議でケアについての振り返りを行い、家族へフィードバックしたところ感謝の言葉をいただいたという。法人内にはターミナルケア委員会があり、随時職場にて伝達講習を行い、スキルアップに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署による救急法の勉強会を実施・訓練行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(年2回)を行い、迅速な避難が出来るよう努めている。設備点検や緊急時の連絡方法等については日頃から随時確認を行ない、有事の備えに努めている。	毎年度、複合施設として地域住民や消防団の協力を得て、全利用者が参加し火災想定と搜索訓練を実施している。地域との防災協定も結んでおり、複合施設として水や食料品、介護用品の備蓄も準備されている。また複合施設としての連携体制や「緊急連絡表」、「緊急時対応フローチャート」、「グループホーム火災避難経路」、「利用者毎の避難対応」などが文書化され、有事に備えている。	

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切に、さりげないケアや自己決定しやすい言葉掛けに対応し、配慮している。	法人の基礎研修や毎月の職員会議で認知症ケアについて学ぶだけでなく、日常的に管理者からパーソンセンタードケアについて職員に話し、人権意識を高めている。また、BPSDとの関係や心理的ニーズの何が欠けているのか等についても日頃から意識するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言える雰囲気作りに心掛けている。また、意思表示できない方には職員の言葉掛けで表情から探っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、笑顔がみられるように柔軟な心で関わり希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々に必要な支援を行っている。月一回委託契約している訪問理髪サービスを利用している。また、季節に応じた服装や行事に合った服装で参加して頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、片付け等の家事には一人一人のADLの意思に沿い仕事を分担し、参加して頂いている。また、誕生日会では本人の希望に沿ったメニューにしお祝いしている。	献立は法人の管理栄養士が作成し、それを基に職員が調理をしており、約半数の利用者が包丁を用いた調理や配・下膳、食器拭き、お茶入れなどに積極的に関わっている。また、家族からの差し入れやベランダで栽培しているニラやトマトなどが食卓に上がったり、おはぎ作りやいなり寿司作りなどを随時行っており、利用者の楽しみの1つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え季節の食材をメニューに取り入れている。また、水分も確保できるように甘味をつけたり、ゼリー等も提供し水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学び、御自分で出来る方には声がけ・見守りをし、支援が必要な方には義歯を外し口腔内の清潔に努めている。義歯は毎晩洗浄剤で洗浄している。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめなトイレ誘導、必要に応じ声掛けしながら行っている。また、パット・リハビリパンツ使用されている方でも出来るだけトイレで気持ちよく排泄ができるよう支援し、清潔保持にも努めている。	利用者の排泄状況については、2名の方がリハビリパンツとパットを使用しており、他の方は布パンツにパットを使用している。ホームではトイレでの排泄を基本としており、利用者の状態を見ながら、定時や随時にトイレ誘導している。また、排泄方法や排泄用品については居室担当からの意見・情報を基に家族と相談しながら決定している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく内服薬等に頼らず水分促しや、ゼリー等で対応し便秘改善に努めている。また、訪問看護と連携を取りながらその時の状況に合わせた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の希望に合わせて声掛けを行っている。その日の体調や個々に合った支援をしている。	基本的に週2回の入浴となっているが、日曜日以外は入浴日としているため、利用者の体調や希望に応じて柔軟に対応している。約3分の1の方については全介助が必要となっており、他の方については見守りや一部介助で安全に入浴できるようにしている。また、男性スタッフによる介助を好まない利用者については女性スタッフが対応したり、日にちを変更して入浴していただくようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人が安心して休息・就寝が出来るよう、居室の環境を整え心地よく休まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の処方箋はファイルに保管し、全職員が分かるようにまとめている。また、変化等あった場合は随時記録に落とし訪問看護や医療との連携が図れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じ、趣味活動や家事参加・クラブ活動・レクリエーション等の参加を通じ、を充実した一日を過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週日曜日を外出の日として、出来るだけ多くの利用者様が外へ出掛けられるよう支援している。また、行事等で御家族や地域の方と協力をしながら、気分転換できるよう支援している。	日常的には気候や利用者の体調を見て、少人数でホーム近くの長池公園へ散歩に行ったり、ドーナツやアイスクリームを食べに行ったりして気分転換できるようにしている。また、全員での外出については家族や外出ボランティアの協力を得て、バラ園やラベンダー祭り、ハスの花の見学などへ出掛けている。	

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様一人一人の金銭管理の力量を検討してお金を所持し、買物の時に支払えるよう家族とも相談して取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば、貸し出している。必要に応じ、見守りや仲立を行う。また、個々に家族・親族等に暑中・寒中・年賀の葉書のやりとりが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品を飾り、季節感を取り入れ、照明、材質等も温かみを感じられるものを使用している。職員で季節の花を持ってきてフロアに飾るように努めている。	複合施設2階にある当ホームの中央にはホールとキッチンがあり、エアコンと床暖房で快適に温・湿度管理もされており、周りの壁には行事の時の写真や利用者が作成した絵手紙などが飾られている。ホール横には小上がりの畳敷きの場所があり、そこで休まれる利用者もいるという。また、トイレは2ヶ所あり、車いすでも利用できるスペースが確保されている。浴槽は半埋め込み式になっており、リフト機能がついているチェアもあるため全利用者が浴槽に浸かることができる。日中はほとんどの利用者がホールで過しており、居心地の良いスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身がくつろげる場所を確保し、職員も声掛けを行い支援している。(フロアの和室等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、利用者それぞれに合った居室作りに取り組んでいる。	ベッド、クローゼット、床頭台、洗面台が備え付けられており、空調はエアコンと床暖房で調節されている。居室には在宅で使用していた椅子やタンスが置かれたり、遺影が飾られている居室もあり、生活感を感じることができた。また、各居室入り口には表札や上田市の地名の入ったプレートが掲げられ、利用者自らが自分の居室であることを判断できるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、段差解消や手すりを備え付け、安全を図っている。出来るだけ自力で自由に行動が出来るよう配慮している。		